

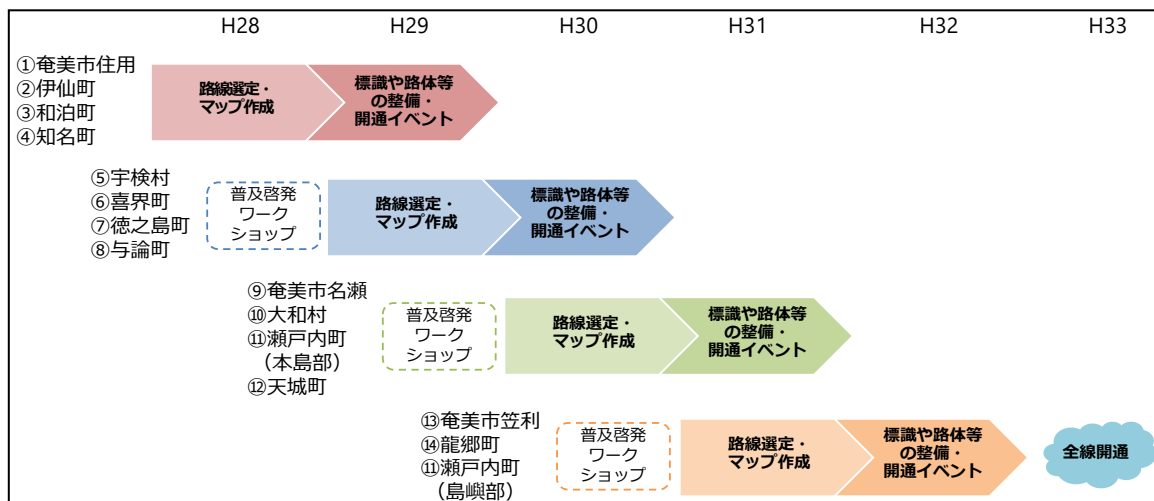
「世界自然遺産 奄美トレイル」～奄美群島道づくりの現在地～

◆「奄美トレイル」のコース選定スケジュール

「世界自然遺産 奄美トレイル」*は平成 33 年度の全線開通を目指し、奄美群島全 12 市町村を通るルートづくりを進めている。奄美市は 3 地域（笠利、名瀬、住用）、それ以外は町村単位で合計 14 地区に区分し、1 年で 3～4 地区ずつコースの検討を行うことになっている。

コース検討にあたっては、各地区で地域住民を対象にして、トレイルに関する理解促進・普及啓発のためのワークショップの開催（1 年目）、コース選定に係る地域資源の掘り起こしやコース案、トレイルマップ原稿作成に関する意見収集のための参加型のトレイルコースづくり勉強会の開催（2 年目）を経て、完成したトレイルマップの印刷、標識等の整備および開通式典の開催（3 年目）、と 3 段階で進める計画となっている。

※業務概要については、平成 28 年（平成 27 年度事業）に紹介。



(図: コース検討のスケジュール)

◆コース検討・選定の体制

○地域おこし協力隊との協働

平成 29 年度からは各地区で勤務している地域おこし協力隊に、コース選定のための調査実施やワークショップを中心となっておりまとめる役割を担っていただき、コース検討を進めている。もともと地域おこし協力隊とは、総務省が推進する事業であり、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地方自治体が都市住民を受け入れてそれぞれのやり方で委嘱し、一定期間以上、地域活性化に関連する活動に従事してもらいながら、当該地域への定住・定着を図る取組である。行政の一端を担い、地域に密着しながらも、比較的自由な動きができる立場にあることから、業務委託者である鹿児島県の助言により当業務への協力をお願いすることになった。

協力隊とは、弊社および所属する市町村担当課の 3 者で覚書を締結し分担を決めた。今回関わっていただいた協力隊は 3 名（宇検村を除く各地域 1 名）で、もともと IT 関係の仕事や高齢者関係の仕事に従事していた方々であった。弊社においては、協力隊に対し、業務の進め方や必要な知識等について研修を行うとともに、作業の進捗管理や技術的支援等を行った。また、一緒に作

業をしていくにあたっては、Google Drive を活用し、作業成果やデータの共有ができるよう工夫した。

○協働による成果と課題

地域おこし協力隊が中心となってコース選定を行ったことで、地域住民の意見を十分に反映したコースができただけでなく、地元では気づかない町の魅力を引き出すコースができたとの評価も得られた。これは、地域おこし協力隊が、地域を客観的にみられる立場、ある意味でよそ者の視点を持つ者だからこそできた結果といえる。一方で、基準となる手法やルール以外の進め方は協力隊の裁量を重視し、手探りとならざるを得なかったこと、また、協力隊は通常業務とは別に当業務に関わっていただくことになっていたので、作業の管理が難しく、当初想定していたスケジュールがずれ込んでしまったことは今後の課題である。



◆コース選定の進捗状況

トレイルのコース選定に取りかかってから2年を経て、全14地区に区分したうち8地区のコースの選定が完了したところである。それぞれ10km程度から成る全26コースの距離総計は266.6kmとなった。コースごとに独自の「テーマ」と3～4か所の「見どころ」を設けており、バラエティに富んでいる。周辺環境で分類すると以下の表のとおり、海岸や集落を通過するコースが多くなっている。森林を通過するコースの設定に関しては、希少種の保護、安全の確保、地権者の意向等の観点から、慎重な検討が必要とされている。

(表:H28・H29 選定コース(枝線含む)の周辺環境分類(試行))

	住用	宇検村	喜界町	伊仙町	徳之島町	沖永良部	与論町	計
コース数	4	3	4	3	3	6	3	26
うち森林通過コース	3	2	2	1	0	0	0	7
うち海岸通過コース	3	2	4	3	3	6	3	24
うち集落通過コース	4	3	4	3	3	5	2	24
うち遺産推薦地通過(注)	3	1	—	0	0	—	—	4
うち国立公園内通過(注)	3	1	3	3	2	3	1	16

注：コースが一部でも遺産推薦地(推薦区域及び緩衝地帯)や国立公園を通過している場合は含むが、境界に接するだけの場合は含めない。